

## 文月：第16話「心について考える」

今月8日、海田警察署の方々のご協力のもとで、犯罪防止教室が開催されました。劇を交えながら視覚的に子どもたち一人一人に訴えるものでしたから、子どもたちは、指導された内容を十分理解できたように思います。

1～4年生は、友達に誘われて万引きの手伝いをしてしまうという、万引き防止の指導でした。万引きをすることにより、親をはじめたくさんの人たちが悲しい思いをすることや、見張りをするのは万引きに協力したことになるので、「断る勇氣、止める勇氣、逃げる勇氣」をもとうという指導がありました。

5・6年生は、スマホによる他者の悪口を書き込んだり、他人の写真をアップしたりすると、取り返しがつかなくなることを、劇を通して指導していただきました。いずれのケースにおいても、人はうそをついたり、ごまかしたりするとモヤモヤした感じが残ります。自分の心にうそをつかないことが大切です。

私の方からも、「自動販売機に、だれかが取り忘れたお金が残っていた」ときの話を例に出して、「だれも見っていないからといって、残っていたお金を自分のものにするのは絶対によくないこと」と、話しました。

終業式でも、「心」について子どもたちに話をしました。

「人の心の中は直接見ることはできませんが、行動を通して人の心を押し量ることができるものです。



それが、学校という単位で見れば、落ち着いて行動しているかどうかはとてもよくわかります」と話しました。例えば、教室やろうかに牛乳のストローが落ちていたり、ろうかをつい走ってみたり等がこれらにあてはまります。チャイムの合図が守れなくなることもこうした現象の一つです。

運動会や学習発表会といった学校行事等の練習に集中して物事に取り組むあまり、いつもとは違う「疲れ」の影響で、それまで当たり前できていたことができなくなることは、だれしも経験する

ことですが、「ちょっとくらいいいだろう」という弱い心が頭をかすめたときに、そこで踏ん張るか、弱い心に流されて行動してしまうのかは、大きな違いがあります。このように、人間の弱い部分を意識させ、そうならないように事前に具体的に指導することで、トラブルを未然に防いでいこうと考えています。

人の行動には理由がある。私が指導する際に拠り所になっている言葉です。他者には理解できにくいことであっても、本人なりの理由やパターンに沿って行動しているということです。学校では、これを理解したうえで指導していかないと、子どもの心にストンと落ちないことが多いように思います。逆に、行動の理由がわかれば、自分のことをわかってくれたと思って、こちらの心が伝わって、子どもたちの方からアプローチをかけてくれることも多い気がします。

